

ふたりのコラム

February 28, 2022

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイプルキッズ 施設長 新井利枝

《3・4・5歳児》

今春の柔らかな気配を感じられるようになりました。

1月末からの家庭保育協力の依頼で、いろいろな思いが交差していたこととお察しいたします。先日のメッセージでも伝えさせていただきましたが、乳幼児期の貴重な時期への教育・保育を提供したい、しかし、感染が拡大していることによるリスクはなるべく回避したい、その相反することを考えると、本当に心が締めつけられる思いです。



保護者の皆様も、まさに複雑な思いだと思います。実際、今週からの登園率は、今までに比べて若干上がりました。しかし、それは、リスクも高まったということでもあります。

今迄も、感染対策を保護者の皆様にもお願いし、職員たちとも徹底してまいりました。今後も、手洗い・うがい、換気、消毒等、細心の注意を払って、もしもの時も、感染が拡大しないような努力をし続けていきたいと思えます。保護者の皆様も、今まで同様健康観察を行っていただき、少しでも体調の不良が認められた場合は、お休みし、通院や検査などの対処をお願いします。

窯たき

さて、窯たきは、泥工房（でくのぼう）、お父さんスタッフ・もり組保護者有志、職員でシフトを組み、大人たちが力を合わせて、25日（金）から3日3晩、火をもし続け、28日（月）火を止めました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



先月号でも少しお伝えしましたが、スイッチ1つで焼く電気やガス窯とは違い、人と人が集い、力を合わせて行う“協働”がそこにはあります。焼き物を作って焼く、というその一連の工程の中にたくさんの意味合いがありますね。
かまたきの様子は、インスタグラム、HP等からご覧ください。



保幼小架け橋プログラム

12月号でも少し伝えましたが、小学校との接続はとても大切であり、当然のことながら、幼児教育は、狭い意味の小学校入学のための準備教育ではなく、広い意味で、小学校以降の学習の基礎（人間形成、学び力の基礎等）になる力を培うものです。決して、小学校での学びの先取りをするのではなく、今の時期に学ばなくてはならないこと、社会情動的スキルを中心とした、学童期以降の学習の基になるもの（思いやる気持ちをもったり、不思議に思い、知的探究心を膨らませ、仮説を立てたり、調べたりするなど…。これは正しい答えが必要ではなく、考えたり、面白がったりすること）が大切なのです。

それらの幼児期に大切にされてきたことを理解した上で、小学校の学びをスタートさせることが重要であり、その接続をスムーズにするために、中教審による保幼小の架け橋プログラム委員会が設立されています。架け橋プログラムについては、近日配信します「保育ナビ」の記事をご覧ください。保幼小の接続の重要性がよくわかると思います。

ねらいに向かって…

コロナ禍で、家庭内保育のご協力をしてくださっている状況ではありますが、もり組は、本日28日よりキッズフェスティバルに向けた活動を進めています（もり保護者にはお知らせ済み）。もり組のその活動のねらいは*『合意の形成』です。

*合意の形成とは、いろいろな意見を出しあい、その理由も伝えあって、クラスの仲間全員が納得して一つのことを決めていくことです。

そこでは、自分も大切、相手も大切にすることが求められます。

もり組は、劇活動を行います。ストーリーと役を決め、大道具の相談等をしている最中、家庭保育協力期間になってしまい、先週まで中断していました。本日より活動を再開しましたが、いつ学級閉鎖等が起こらないとも限りません。その場合、劇ができなくなってしまう可能性もあります。世の中には、どうにもならないこともありますね。本日、今後の予定をクラスごとに確認し、子どもたちと予定を再調整しました（見通しをもって生活する）。その後、もしも、学級閉鎖等で、できなくなってしまったときどうしたらよいか（社会の情勢を知り、そのことについて思考する）、ということもクラスで相談しました。ねらいである合意の形成をその話し合いの中でも進めて



いっています。劇活動はねらいに向けた手段であり、目的ではありません。大きな目的は、合意の形成をしながら、クラスのみなが一つの方向に向かっていくということです。生まれてたった5、6年しか生活していない子どもたちではありますが、自分たちのことを自分たちで納得して決めていく、という大切な経験をしてほしいと願っています。このことは、劇を作り上げるより、難しいことかもしれません。担任たちにとっても大変なことかもしれません。しかし、そこに向かってしっかり一人ひとりと向き合っ、考えようとする力が育まれることを願い、この継続的な活動の中で、問題解決能力が培われていくことを期待します。

（文責：中田）

《0・1・2 歳児》

まん延防止重点措置が延長になり、色々な思いを持たれていることと思います。今後も、感染防止対策をしっかりと行い、保育をしていきます。何かお困りのことや不安なことがありましたら遠慮なくご相談くださいね。

園内でも基本的な感染対策をしっかりと行っていくように心掛けていますが、その思いが子ども達にも浸透してきているようです。つい先日のことですが、2歳児クラスの女の子が手を洗う際に「1番、お願いのポーズ、2番、カメのポーズ、3番、お山のポーズ、4番、おおかみのポーズ、5番、バイクのポーズ、6番、つかまえたのポーズ」と順番に言いながら手を洗っていました。近寄ってみてみると、水道に貼ってあるポスターを見て、確かめながら真似て洗っていました。私が「Yちゃん、手の指の隅々まで洗えてるから、ばい菌やっつけられるね」というと、得意そうにしていました。2歳児クラスの子ども達は、どの子も自分で泡せっけんを手に取り、しっかり手洗いをしています。毎日の習慣がしっかり根付いているようです。他にも、食事の前には、保育者に自ら手を出し、「シュッシュして」と手のひらを向け消毒を待っている姿も見られます。感染予防には、密を避けるのはもちろん、基本的な手洗いやうがい、室内の換気などが最も重要です。メイプルキッズの保育者は小さい子の保育に携わっているため、生活面での援助等も多々あります。保育者自身も各自消毒を携行し、こまめな消毒を行っています。保護者の方にも送迎時の消毒等、ご協力いただきありがとうございます。これからも日々の感染対策をしっかりと行っていきたいと思います。



2月18日早朝、急に雪が降ってきましたね。風も強く、出勤前に外を見てびっくりしてしまいました。

その後、晴れ間がのぞき、天気も回復してきましたが、園庭の建物の脇には、朝の雪がまだ残っていました。子どもたちは、それを見て、大はしゃぎ！

つくし組の子ども達も雪に触れ、その冷たさにびっくりしていました。年少組の女の子たちもやってきて「見て、雪だるま作ったの」と大事そうに手に抱え見せに来てくれました。その雪だるまを不思議そうに見る、つくし組の子たち・・・。

手を差し出し、恐る恐る触っていました。ほんの少しでしたが、雪遊びを楽しめたようです。他の子たちも、雪でぐちゃぐちゃになった泥を集めて楽しんだり、バケツに雪を集めたり・・・思い思いに楽しむ姿がありました。大人にとっては、雪はちょっと困るけど、子ども達にとっては、楽しみの一つなんでしょうね。



つい先日のこと・・・

年長組のテラスの前に何人かの女の子がいました。私の姿を見て、「先生、髪切ったの？」とSちゃんが声を掛けてきました。「そうなんだ」と返事をすると、近くにいたYちゃんが私をじっと見て、「先生、お洋服いっぱい着てるからかな？お腹出て見えるよ」と言ってきました。「え？そう？」と答えると「先生、前は痩せてたのにね・・・」と切なそうな顔で言われてしまいました。思わず私も「そうなの、みんながメイプルにいたころは、もうちょっと痩せてたんだけどね」と答えると、「これからまた痩せればいいんじゃない？」と言われ、思わず「うん、頑張る！」と返事をしました。

何だか女子の会話だなと思うと同時に、「前は・・・」と「これから」という言葉を聞き、そっか、もう5歳になるから、時間の感覚もしっかり身に付いてきたんだなと、その成長を嬉しく感じてしまいました。メイプルのところは、「今」しか理解できなかったのが、「過去」「未来」について考えられるようになり、比較もできるようになってきたのですね。だいたい4歳を過ぎると、以前こうだったと思い出し、それを伝えることができるようになっていきます。ちょっとした会話からも子ども達の成長が感じられた瞬間でした。そして、成長を喜ぶと同時に、ダイエットを誓う私でした・・・・・・(汗)。

(文責：新井)